

早稲田大学 人間科学学術院 人間科学会 諸費用補助成果報告書 (Web 公開用)

申請者 (ふりがな)	池本 悟 (いけもと さとる)
所属・資格 (※学生は課程・学年を記載。卒業生・修了生は卒業・修了年月も記載)	人間科学研究科修士課程 2 年
発表年月 または事業開催年月	2025 年 9 月
発表学会・大会 または事業名・開催場所	第 66 回日本社会医学学会総会
発表者 (※学会発表の場合のみ記載、共同発表者の氏名も記載すること)	発表者：池本悟 共同発表者：徐桜哈、金群、西村昭治、扇原淳。
発表題目 (※学会発表の場合のみ記載)	脂質異常症における病識と服薬行動の地理的差異に関する研究：NDBオープンデータを用いた都道府県別分析
発表の概要と成果 (抄録を公開している URL がある場合、「概要・成果」を記載した上で、URL を末尾に記してください。また、抄録 PDF は別途ご提出ください。	
<p>【背景・目的】 病的な状態であるにもかかわらず本人が自覚していない、すなわち「病識の欠如」は、健康管理の遅延や治療機会の喪失をもたらし、ひいては深刻な健康被害や社会的損失につながる可能性がある。こうした病識の欠如は、患者本人のみならず家族や社会にも影響を及ぼす重要な課題である。また、服薬管理の不適切さとも結びつきやすく、医療資源の非効率な使用や医療費の増大にもつながる可能性がある。本人の自覚的な服薬行動が治療効果を左右するため、服薬実態とその背景要因の把握は喫緊の課題である。脂質異常症治療薬の処方実態と特定健診質問票から、都道府県レベルでみた差異について検討することを目的とした。</p> <p>【対象・方法】 NDB オープンデータを用い、脂質異常症治療薬の処方情報と特定健診質問票の服薬回答との突合を行った。処方情報から、薬剤の処方量を年齢別・性別・都道府県別に抽出し、Smirnov-Grubbs 検定を用いて都道府県レベルの違いを分析した。</p> <p>【結果】 脂質異常症治療薬の一人当たり年間平均処方数は 126.8 錠で、年齢とともに増加傾向にあり、70～74 歳では男性 130.7 錠、女性 143.9 錠であった。都道府県別では京都府が最多 (180.8 錠)、沖縄県が最少 (94.6 錠) であった。服薬しているとの回答率の平均は 16.0% で、最高は福島県 (19.1%)、最低は高知県 (13.4%) であった。処方数と服薬回答率の間には統計的に有意な正の関連がみられ、外れ値であった都道府県情報を加える。</p> <p>【考察】 本研究により、都道府県レベルで統計学的に有意な差がみられた。服薬に影響を与える個人要因としては、さまざまな要素が関与していることが明らかになっているが、都道府県レベルの地理的空間的な差に影響を与える要因としては、医療提供体制・医療資源、住民の健康意識、健診・保健指導体制、医療文化・処方慣行、保健医療政策の違いが考えられた。しかしながら、都道府県別の差は単なる処方傾向や患者の記憶力では説明しきれず、制度・文化・社会・地理などが複雑に絡んでいると思われる。今後は、こうした構造的背景をふまえた地域比較研究や、自治体間での好事例の抽出・政策提言が重要となる。</p>	

※無断転載禁止